



Petri Club

季題・夏の被写体……写 楽 斉
表材と表現……宇野木 敏

写真あれこれ……福田 勝治
コント……大野木 喬



8

ペトリクラブ

季 題 写 楽 齊

曆の上では間もなく立秋ということになっているが、水銀柱は毎日三十数度の高温を示している。だが、この「ベトリ・クラブ」がお手元にとどくころは、まさに涼風颯々の初秋に入っていることだし、ことさら筆者が季題や被写体について申上げるまでもなく、自然と秋の被写体にふさわしいものに移つていくにちがいない。

そもそも「という」と、いかにもここでにわか感を感じたためたようだが、この頃の写真にはもう俳風韻の歳事記風では、よろこんで埋えられなくなっているが、やはり古今往來多くの詩歌にうたわれてきている夏から秋への季節の移りかわりほど人々のところをうつものはなからう。だから、われわれの先輩たちは写真の初期に「いよゆる自然主義の培土に育つた写真の多くは、蕭條落漠の秋をたたえ、それを主題にして大いに感銘をあたえた

ものだが、今日の写真では季節を主題にしても、そこに社会や生活にかかわる要素として人物を織りこむとか、逆に人物の背景効果として季節をとり入れるかして、季節そのものはオブ・リミットの形である。

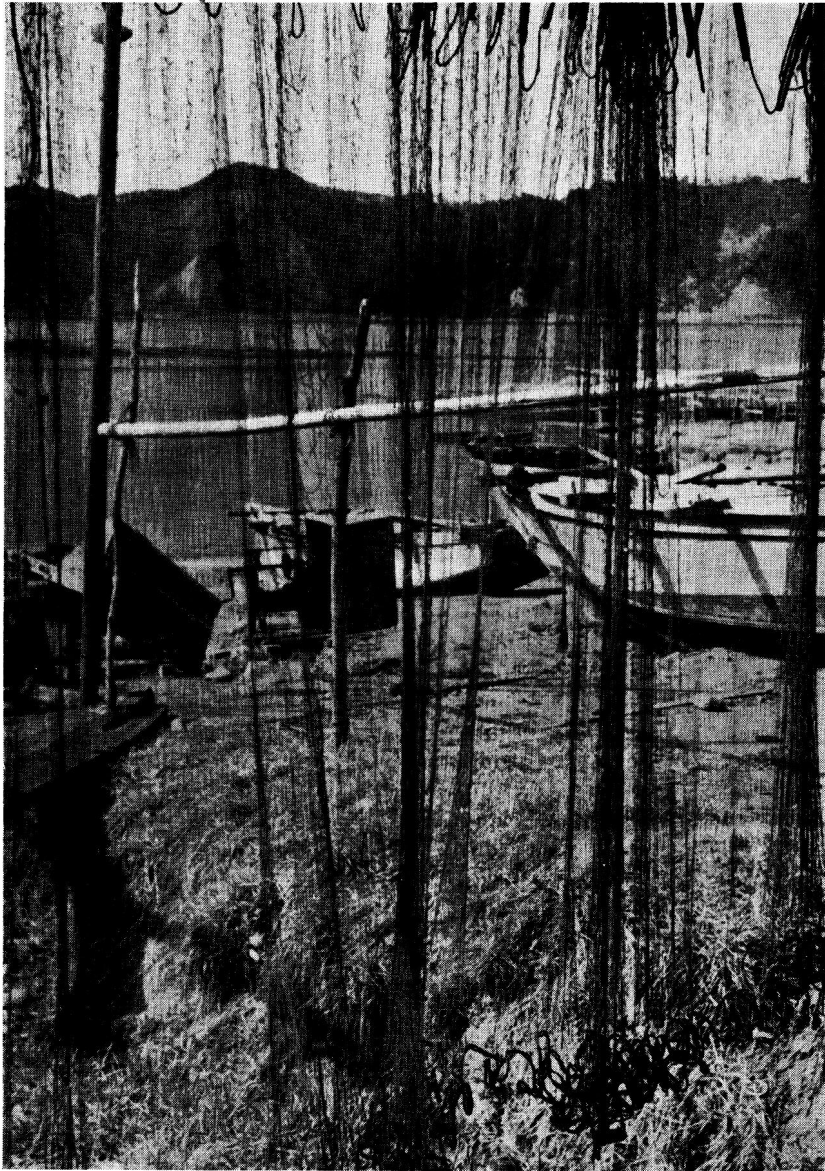
筆者はここでその是非を論ずるつもりはないが、こうした画面の組み立てが少くとも先輩たちの形造つた事蹟の上に積み重ねられたものだということを信じたいし、だからこそ新しい季節をもとめ、新しいあらわし方もあるのだと考へたいのである。

そういう意味で都会の路上人物のミナップにしても、人物そのものに秋の季節のこもつたものを狙うために服飾や表情に注意するばかりでなく、必要ならば背景効果の上から考へた店頭装飾や街路樹などに秋色のはつきりあらわれたものや、その状態を逆ぶるようにして、殊に衣料、生花、鮮魚、生果、蔬菜などの店頭は、そこに集う婦人たちとともに秋の数限りない素材を提供してくれることだろうし、しかも生活的な季節として適切なものだということができよう。こうした秋の被写体は、むろん都邑を問わずともめられるものが、特に村落で季節のうつりかわりが色濃く

都会に多い人工的な季節の象徴やそのあらわし方とはちがつた自然の中の人間のいとなみが季節を通して強調されるような主題、たとえば農作物の収穫や出荷、村祭、運動会などが最も特色のある被写体になろうし、地方色のいちじるしい冠婚葬祭も特定の秋の季節を感じさせる素材をとりいれることで一層主題として内容づけられることが多いと思われる。

また、秋は春と共に修学旅行や行楽の好期なので、都邑それぞれの服装やその場の状況の上に、なお秋だけにしかみられない駅売り土産物、植物などを配すれば自ら季節にふさわしい特色のある被写体になろうし、港湾や漁村でも旅客の風態や手荷物、魚獲の種類などでたやすく季節をとらえられよう。その他、仲秋の観月や街の夜景にも、秋色をあらわす新しい種々の被写体があることを考へると、秋の愉しみはもうすではじまつたものといえよう。

秋の寫眞体



漁 村 宇野木 敏 ベトリ35

オリコール F3.5 45mm 絞F5.6 $\frac{1}{50}$ 秒 コニパン S

オフィスの限られた時間設定と、その時間にあられる特色のある状態が徹俯撮影で明確にとらえられている。時計と開放された窓、やや長くのびた建物や人物の影。いずれも夏の季感をさそい、この時間をおもわせる恰好な素材と表現である。



特選 午後四時 山崎 功 (東京)
ベトリフレックス オリゴール F3.5 75mm 絞 f11 $\frac{1}{200}$ 秒 ネオパンS D-76 ペロナF3 D

カメラを殆んど直角に寄切る地方色のある人物と、内海の波一つないきよらかな海辺のヨットとの対比の面白さが内容として生かされている。人物の位置からいつて、タイムリーがやや早過ぎたことが惜まれる。



二席 黒い傘と白いヨット 由良昌義 (神戸)
ネオパンRF オリゴール F3.5 75mm 絞 f11 $\frac{1}{100}$ 秒 コムパンUSS D-76
ペロナF2 コルクトール



二席 基地の二人 高田 敏 (広島)

ネオパンRF オリゴール F2.8 84mm 絞 f8 Y17 コルクトール $\frac{1}{100}$ 秒
コムパンS D-76 ペロナAM3 D-76

基地の、とある店先のスナップ。いろいろな政治、経済、教育問題をはらんでいる基地だが、生な人間性のあふれている情景はやほほえましい。店の主人らしい人物も眼ざわりにならず、かえってリアルな感興をそえている。

ネオパンRFオリゴール F3.5 75mm 絞 f3.5 $\frac{1}{200}$ 秒 Y27 コルクトール スーパーXX 月光V2
ベトリフレックス D-76
一席 帽子 小島 栄 准 (香川)

後向きのポーズ、それを画面一杯にとり入れた造型効果が注目される。両側の人物と白波の動感は適切だが、開放絞りのために肝腎な帽子の質感が失われた。



お祝やお祭らしい日の特別献立。フラッシュ撮影のために子供の自然なポーズがとられ、また農村特有の薄暗い家の構えをおもわせるものがある。障子と人物の形式的な配置も、この場合適当といえよう。



二席 わッ、すごいナ 小 島 幸 助 (群馬)

パトリスーパー オリコール F3.5 75mm 絞 f5.6 1/25 秒 コニパンUSS IM31コ同調ミニドール
ベロナF3 D-72



三席 お祈り 藤 井 文 雄 (大阪)

パトリスーパー オリコール F2.8 34mm 絞 f4.0 1/25 秒 コニパンUSS D-75 ベロナF3 D-72

蓮華座の菩薩に敬虔な祈りをささげる信徒の純朴さ。燈明や焼香の描写がそれをよくたずけている。

寫眞あれこれ

福田勝治

この会報の出るのは八月末で、まだ残暑のきびしい頃と思われるので、気楽に読み流していたために随筆随想、それも気随気ままな残暑閑談を書きつらね、それが多少でもご参考になれば望外の倅せである。

先ずはじめにわれわれに親しまれている写真雑誌にふれてみるとそもそもそれが商業雑誌である限り毎月盛沢山な一般の興味を引くような内容になるのは当然としても、各々読者層を意識して編集されているようでありながら、実は相似点が多く、十指を屈するカメラブームに乗ったものうちで独自の特色を打ち出しているものは数少ないといえよう。むしろ、これらは読者の自由選択にまかされているともいえるので、特色が目立たないものでも私たちが意外に思うほどよい売行をみせている雑誌の中にはあるものと想像される。もともと、雑誌はプロとアマチュアの間をむすぶ役割の最も大きなもので、どの雑誌も

口絵にプロ、月例にアマチュア、本文に指導紹介記事を根幹にした編集ぶり、現在のようになら初級用としてアマチュアのレクレーションの役目を果たすのもよからうし、中級用として写真家への道程上必読のものとするのもよからうし、また高級用として写真家の好伴侶となるのもよからうし、要は下級から上級へと写真の課程的な実験や研究の効用が直接間接に果されれば、商業雑誌とはいいながら一応雑誌の社会的、啓蒙的な使命は果されるものといえようし、その他のなくもがなのアクセサリーも案外アマチュアに迎えられることもある。

しかし、プロとなると多くは平常から制作やそれに関連した諸用に追われて、自作の発表されている雑誌も落着いてみる暇もないといふのが実状で、これはただ写真家のみにとどまらず、仄聞するところでは小説家、画家などの場合もほぼ同様らしく、雑誌について

無関心でいられるわけではないが、制作に打ち込んでいる者一般の実状ではなからうか。だから、間断なく催されている写真展についても同様で、関係先の団体や知友人の発表展などもつい見逃すことが多く、よほど特別の場合をのぞいては参考や觀賞の目的だけで出掛けることは少く、またその機会にめぐまれないことが多い。いわば、特別の場合をのぞいてというのが自分では展覧の自然な自由選択になつていて、その他の場合は時間的な事情もさることながら自分の関心をそそらなかつた結果だといえなくもない。実のところ最近のように年中随時随所にくりひろげられている展覧には応接のいとまがないのである。

また、たまたま会場に出掛けても、いつわりのない感想をもらすのを観るもののエチケットと心得ている自分なので、初級の写真にも忌憚らない意見を述べざるならわしのまま、つかうかつかうかと評言のひとつきりということになるが、結果は一部の人々をのぞき作家の紋切型の一家言と扱われるのがおちで、意をつくしたつもりでも遂に意志の疎通を欠くことが多い—ということを自覚する機会を得るには有益だが、そうした百万語の評言やその

反応より、もともと作家は作画一辺倒で主張はすべて作品の中に物語られている筈のものだから、多くは拙作が自分の代弁者の役割を果たしていると思うと、あなたが評語の反響にこだわることもないわけのものであろう。

展観については、作品はむろんのことだが気がかりなのは会場構成である。作画は、雑誌の場合は別として、先ずカメラの選択にはじまつて、会場構成に終るといつてもいいくらいで、既設の会場でやむを得ない場合はとにかく、グループ展ならそのグループの持ち味を生かした特徴のある構成であつてほしいし、個展なら尚更会場のすみずみまで個性的な気がばりがゆきとどいていて、それが会場全体の特色のある雰囲気をかもし出すようにこころがけたいものである。殊にこうした際に注意したいことは、白黒のスペースングと色彩調節であろう。この頃では領縁の使われることは少く、多くは袋張りそのままのものを既設のパネルに慢然と配置したと思われるものが多い。作品をのぞく他のスペースの設定はその作品の内容にもよることではないが、にはいえないが、展観だから観る者に親切な心遣いから、パネルの色彩や作品とスペースとの明暗効果、照明効果をバランスよく考え

て、入場者に安定感をあたえる展示様式にしたいものである。でなければ、切角作品の公開の機会にめぐまれていながら、充分にその成果をあげることができなくなるということを予め注意したい。

それに、慾をいえば主催側で感想をもとめるのに、紙片を手渡してアンケートにするのとより、時折入場者と一緒に会場を巡回しながら感想をきくほどの積極性があつてもよいのではなからうか。通り一べんの投書のもとめ方では、おそらく得るものはないものと思われる。道聴途説はいまいしめなければならぬが、多くの人々にいつわりのない感想をもとめることは初歩であればあるほど望ましいことと、雑誌の短評のように担当の評者一人の場合とちがつた多方面の評や感想は、こうした機会にはじめて得られるもので、先ず多くを聴くことにつとめたいものである。そうすることで、自分や自分たちグループの主張が客観的に公正なものかどうかという判断も自らあきらかにされるものと思われる。

確かに、初心の間は往々にして独断におちりがちなことが多く、作画の方向もさだまらない不安定な時期なので、困難な独創に向う出発のはじめに、指導者ももちろん先輩知友

に卒直な意見をもとめることは、たゆまず作画をつづけることと併せて大切なことだし、それが次第に正しい独創性のある方向を見出す基礎づけになることを思うと、事情の許すかぎり、多く聴き、多く見、多く作るということが作画の上の最も大切なことではなからうか。

なにしろ、写真は展観一つとりあげても、さまざまな問題がふくまれるように、独自の作意や表現、それにカメラ・ワーク、現象処理など、作画の課程はまことに複雑微妙なだけに、作者によつて千種万態、なかなかきままりないもので、個性的でしかも全体として変化のあるグループ展の観る者にあたえる感銘は一入で、それにプロ、アマチュアを問わず主義主張や傾向を越えて人々の上に強く働きかけ、多くの人々のところに深い共感をあたえ、美意識を培う一助ともなれば、写真に携るものの使命もなかなか偉大なものといつてはばかることはなからう。まして近來の進歩しつつある科学を技術とした独特な写真作画は、カラーを加えてまさに洋々とした観を呈して、職業としても趣味としても広い門戸開放のときに望んでいて、しかもそれがいつも社会と直接間接にむすびついでいてことを思うと、困難な作画をさしおいてもよるこびにたえない。

材 一 現 一 表

(7)

宇野木 敏

観ることから作ることへ

作られた写真を観る(追体験)ことは、空間にあるものそのものを見ることではないのもちろんです。しかし、私たちが自然そのものや人為的に作られたものが、そのままに画面にあらわされることを希うのは、前に述べましたように、やはり私たちがそこに真実性をもとめるからにちがいありません。では、ふだん私たちが見なれているものをそのまま忠実に描写記録したものが一番私たちのぞましいものだろうかと考えてみますと、決してそうではないのです。第一、私たちはそれが実在するものと、実在するものをそのままに写しとつたものとのちがいがあつても同じものを何度も観ることに飽きてしまいますし、たとえはじめに感動したもので、それを何度も仔細に観ていくうちに、きつといろいろの欠陥に気が付き、その写真に飽き足らなくなつてきます。

このことは実はなかなか重要なことで、た

だ飽きるということ、飽き足らなくなつて次に自分を満足させてくれるもの(充足感)をもとめることも自らちがうことですし、もつとそれより重要なことは、実感のこもつたもの—いいかえれば最も真実性のあるものをもとめているのにひきかえて、実は真実性のあるものは何ももめていない矛盾をおかしているわけです。これは、いつたいどうしたことでしょうか。このことについては、先に表現ということに関連して申し上げておきましたのでお判りだとおもいますが、作画はもとと空間にあるもの、実在するものを単に平面上に再現するものではなく、特殊な場合を除いては実在するものを素材として、造型上のいろいろな意味を付与するための表現がなされていなければならぬのに、それらの要素が欠けていて、在るものを在るままに平面上に移しかえたに過ぎないからなのです。

ですから、私たちのもめていられる真実性のあるものとは、実在するものを素材として表現的に作り出された真実性のあるものでなければならぬわけで、それはまた実在そのままの再現との矛盾をいつもはらんでいるといえます。と同時に、観るものの立場としては、飽きることから飽き足らず更に次の

新しいものをもとめていき、遂には実在するものの再現と、表現的に作り出される真実性との矛盾をふくめて、主体的に観ることから作ることへ向うことになるとおもわれます。しかも、そこにもまた観ることと作ることの新たな矛盾を交えているわけです、その統一が作品にかかわるつきない命題になつて作者の中につつまでも尾を曳き、そこにはじめて作画をめぐる意義のある哀歎のすがたも見出されるものといえましょう。

作画は苦しく、その苦しきの故にこよい創造のよろこびにおきかえられる可能性がありましようし、写真は単に観ることから、その観ることをふくめた作ることに入つてはじめて真髓にふれるものといつて過言ではないとおもわれます。ですから、作画の上では、この項のはじめに申し上げたように、作られた写真を観ることは批判的に観ることになり、実在するものの中に形や現象の意味を感得することは素材として成り立つものを見出そうとすること、作者はたえずこの両方のきびしいからみ合いの課程を通つた後に、はじめて秩序のある表現法をとることになるわけです。



名寫先生

大野 木 喬

(一)
六十点ばかりの迷作珍作が、壁にずらりと並んでいる。それを、半円形にとりまいた三十数人の眼が一様に見守っている。

名寫先生は、互選と先生選とを色分けにした順位別の貼り紙と写真を交互にひとわたり見廻すと、急にうつむいたまま恥じ入った態度だったが、また、ものやわらかな物腰で講評をつづける。

「要するに……概して……今月は上成績とはいえないまでも、皆さんのご努力のあととは充分にうかがえる……ということになります。ことに、二位と五位にはじめて女性の方の進出をみましたことは、邦家……いや、当会のためにまことによるこぼしいことで、今後の男性の方々のはげみになることを信じてうたがいません。」

そこまでくると、並みいる会員の間にとどくと歓声があがる。先生はそれを正面にうけてちらと満足の笑みをうかべ、つかつかと先生選一席の写真の前進み出ながら、顔をあからめて二人の若い女性に眼をとめる。つづいて個別評がはじまる。

「これは、偶然にも皆さんの互選と同じ第一位であります。私と皆さんの選がこうして一致するということは、私のもためているものと皆さんのぞんでいられるものが完全一致ということ、私としましては先ず皆さんの鑑賞眼に敬意を表し、同時にこのような風景の近代的な見方や写し方がますます盛んになることをのぞんでやみません。申すまでもなく……」

近代的というところで、誰からともなく拍手が湧きおこり、場内に強く鳴りひびく。一

席のご当人謝多さんは、どきまぎして照れた顔を笑いにまぎらせている。

「申し上げるまでもなく、この場合の近代的という意味は、前景の山を裝飾風に克明に描写して、しかも画面に大きくとり入れ、単純な中に繊細な感情のうごきを感じさせるといふ表現の形の新しさ、つまりその新しさであります。私は先ず当会ではじめての女性の方のご入選をおよるこびして……」

会場を見廻す先生の眼が、後の方につつましく座っている袖のないブラウスの女性菅見さんに注がれると、会員たちの眼も一斉にそれを追って彼女に集中される。

「菅見さんおめでと。」

「……」

菅見さんといわれたその若い女性は、金色のイヤ・リングが前にゆれる恰好で、意外にも淡赤い舌をペロリと出す。その瞬間のしぐさは、むろん突嗟のことで皆の眼にはとまらなかつたが、突立つたままの名寫先生や一部の人々には、すぐにそれと気付かれた。

「ペロリの方があのスナップより傑作だな

うふふふ

落選氏のしのび笑い。
「いや、いまのあざやかなペロリにして、はじめてあの傑作ありだよ。」

(二)
女性の会員たちが好成績だった月例会のあと、また翌月、翌々月の二回の会があつたがその後の二人はまつたくふるわなかつた。名寫先生は、ひそかにペロリさん(菅見さんはあの例会の日からそう呼びならわされている)の進出を期待していただけに、例会になるといささか不興だつたが、それも会員の間のへ金山君との金にあかしたドライブのためものだろう。というところの噂やへ何かのはずみだろう。という下馬評とともに、いつの間にか忘れられている。

こうした中に、いよいよ恒例の夏の撮影会になつた。課題は夏の海浜である。
鎌倉の久里浜でバスを降りた一行は、会旗を汐風にはためかせ、世話係、名寫先生、フアッション・モデル、参加会員を合せたオンパレードのようだが、実は会員ほとんどが砂浜から浅瀬につづくそこら一帯のおびただしい裸形たちに氣をとられて、よたよたと歩

み進んでいるに過ぎない。中でも、白髪をまじえた前くぐみの名寫先生は、周りののはしやいだ気分とはおよそかけはなれた様子で、裸の見物人の中にはそれに気付いてくくくとも笑い声を立てている者もある。しかし、それも大正、昭和二代を写真とともにただ一途に歩んできた人の貫録をそなえているとみるとなるほどことなく衆を庄するものがある。

「では、被写体はモデルにかぎりませんが、一様にギャジット・バッグを肩にした長蛇の列は、間もなく由比ヶ浜寄りの先発班のいるテントに着いた。」

「では、被写体はモデルにかぎりませんが、一様にギャジット・バッグを肩にした長蛇の列は、間もなく由比ヶ浜寄りの先発班のいるテントに着いた。」

先生や世話係の注意がすむと、参加会員たちはおもしろいおもしろいグループに分れていく。名寫先生はひと休みして、白く泡立つた沙の満ち退きの美しい砂浜へ海水着のモデルを導き、馴れた手つきでポーズをつける。会員たちはそれをわれ先に三方から取り囲む。汐風がさつと吹きつけ、モデルの髪が軽く空になびくと、皆はおもしろい合せたように一斉にカメラを構える。

「……あのう先生……先生。」
すると、不意に人垣の間から金山君の顔がさしのぞく。

「先生、あのう、会員の人をモデルにしてもいいでしょうか？」
「会員？それは誰ですか？」
わざと聞えよがしに先生は声を大きくする
「ええ、あのうペロリ……いや菅見さんです……」

金山君の声はますます小さくなる。
「さあ、そうね、菅見さんの方でさしつかえがなければいいでしょう。はつははははは」
いつもとちがつた先生の高い笑声につられように、皆の爆笑がそれにつづく。金山君はそれを後に聞きながら一散に海に突き出た岩角の方へ駆け去る。突然のことに呆氣にとられた八等身のモデルも、おもしろい腰を浮かせて彼の後姿を眼で追っている。

「よう、いつてみよう」
誰かが、カメラを高くかざしながら叫んだ。叫んだというより、もうその時は二三歩前に駆け出していた。その後には躊躇していた四五人の者がつづいた。そしてまた……

名寫先生とモデルの二人は、足元の沙の満ち退きの中で呆然と立ちつくしている。岩角の方をみると、もう人影一つみえないばかりか、岩にくだける白い波(以下次頁)

ベトリE・S 35 に ついて

現 今廉価で性能優秀なる35%カメラの出現により、撮影範囲が拡大され写真を楽しむ機会が非常に多くなりました。また素晴らしい瞬間をキャッチした時の喜びは、写真愛好家でなくては判らないものであります。然し写真の醍醐味は小型ネガから、大型印画の生れる時の喜びであり、又此の印画を家族友人に見せる時の喜びであります。

小型カメラに引伸機は絶対欠く事の出来ないものであります。引伸機によつて小型カメラは始めてその性能を発揮出来るものになります。

従来、引伸機は高価なものとして、余程の写真マニアでなければ自分で引伸までやらないのが通例でしたが、これは手頃な引伸機がなかつたのが大きな原因の一つです。

此の度びベトリ35を発売し非常に好評を戴いて居る栗林写真機械製作所が豊富な経験と技術を駆馳して製作し、皆様に贈るベトリE・S 35は小型カメラの機能を結実させる為又出来るだけ多くの皆様方に引伸作業を味つ

て戴く為ライカ判として、あらゆる角度から検討され、生れた画期的な引伸機であります。

小型軽量にして、型態のスマードさ、操作の容易、近代文化製品には欠くことの出来ない要素を具備し性能優秀にして格好な価格、之等が結集されて居りますのがベトリE・S 35であります。レンズはEオリコール・35mm F1.8、引伸用に特に設計製作されたものです。光源は40W特殊電球です。

オパール球体から出る光は、光学硝子二枚構成の広角コンデンサーに依り完全に平均化され、ネガに集中されます。又拡大率の大小絞りの大小より来る光源ムラをランプハウスの上下に依り簡単にとる事が出来ます。

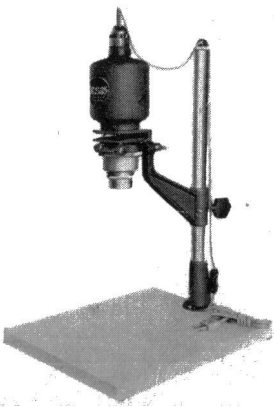
ピントの微動調整は直進式ヘリコイドに依り極めてスムーズに行います。

尚ベトリE・S 35の大きな特徴は、カラー写真の觀賞に絶対必要な投射機として高性能を発揮することが出来ます。

白色塗装の台板はその儘スクリーンとなり

手軽にカラーライドを楽しむことが出来ます。又ヘッドを水平に固定して放映すれば小人数にての觀賞も可能です。

又ベトリE・S 35は台板、支柱、アーム、ヘッド等容易に分解し、極めて小型の箱に格納出来ますので、気軽に近所に持参して、ライドを披露することも、自分だけでスナックを楽しむだけでなく、家庭中で、又友人と共に喜びを分け合う写真の醍醐味を満足させるものであります。



(前頁より)しぶきがみえるだけである。二人は他のグループの方を見渡したが、ポットに乗ったモデルを撮っている人たちのほかに誰も見当たらない。多分人混みにまぎれてみえなくなつたのだから。先生と八頭身はおもわず顔を見合せた。見合せた双方の眼が、夏陽にかげつてまたいた。



三席 お宮の屋根 鮎沢 一 (長野)

ベトリE・S 35 オリコール F3.5 75mm 絞F 5.6 $\frac{1}{200}$ 秒
Y2フィルムターネオパンス D-76 コロネ F3 D-72

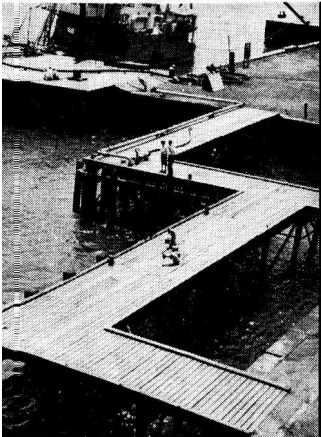
茅葺きの古色はないが千木や堅緒木の特徴のある社殿を通して見える農村の静隠さがうかがわれる。採光上側光を選ぶことで一層画面に奥行を感じさせたのではなからうか。

ベトリE・S 35 オリコール F2.8 84mm 絞F 8 Y1フィルムターネオパンス D-72 葉井3 M10

三席 農村の花嫁 小泉 金蔵 (埼玉)

これまでも多くみかけた作だが、やはり民俗風習のあらわな婚礼と、それに寄せる子供たちの関心の様は親しみ深いものである。農家らしい特徴やカメラ・アングルにまだ研究の余地が残されている。





橋 元田福信 (横浜) ペトリRF

雷光形の棧橋だけを強調して造形に成功す
傑出した作が得られよう。



見物人 平山広枝 (栃木) ペトリスパーV

ゴルフ場だろうが、地方の婦人の物見高い
様子は出ているが、特異な人物だけに主体を
おくことも一法。



話 野口正吉 (東京) ペトリフレックス

いなせな旅仕度、振り分けの荷物は何だろ
うか。時代錯誤のユーモアをとらえたもの。



三席 群衆の中の少女 千葉 鉦一 (静岡)

ペトリRF オリコンF3.5 75mm 絞f4 1/50 秒 ネオパンSS ミクロフアイン フジプロF3 D-72

下掲のものと好一對
親しいものへおくる意
志表示が群衆の中でも
こんな風にあらわされ
る少女期の表徴が際立
っている。

PETRI・SALON

第6回 ペトリ・サロン

佳作

第六回ペトリ・サロン

入選発表

特選 賞金二千円及記念品「午後四時」山崎功 (東京)

一席 賞金一千円及記念品「帽子」小島栄准 (石川)

二席 賞金五百円及記念品「黒い傘と白いヨット」由良昌
義 (神戸) 「基地の二人」高田敏 (広島) 「わっす
ごいな」小島幸助 (群馬)

三席 賞金三百円及記念品「お祈り」藤井文雄 (大阪)

「お宮の屋根」鮎沢一 (長野) 「農村の花嫁」小泉
金蔵 (埼玉) 「群衆の中の少女」千葉鉦一 (静岡)
「語り」丸地善朗 (静岡)

佳作 記念品野口正吉 (東京) 平山広枝 (栃木) 元田福信

(横浜) 岡山政治 (大阪) 山田偉夫 (長崎) 須藤暁

(津) 山口隆夫 (長崎) 高橋雅由 (東京) 水野昇

(岐阜) 宮前宮雄 (東京) 小原保男 (岩手) 吉野勲

(三鷹) 星野政治 (東京) 石川陽 (東京) 釣田義一

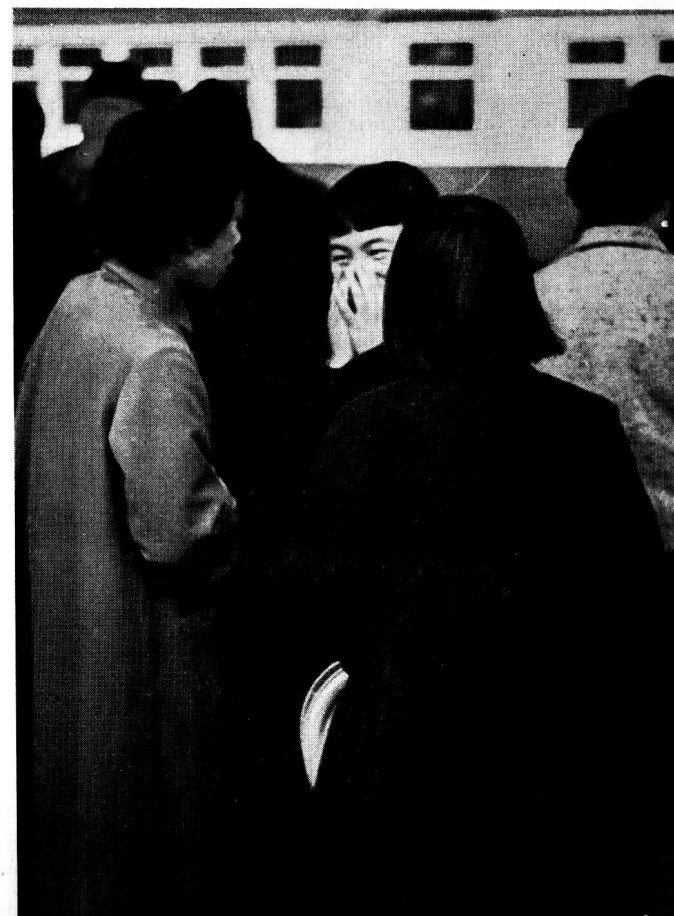
(姫路) 押鐘耕道 (東京) 鈴木康之 (東京) 古沢米

作 (東京) 時田俊吉 (青森) 熊沢達雄 (島根) 鈴木

泰浩 (福島) 小田幸平 (岡崎) 仲井淳 (神戸) 北崎

万治 (東京) 千木良正夫 (東京) 堤照男 (東京) 松

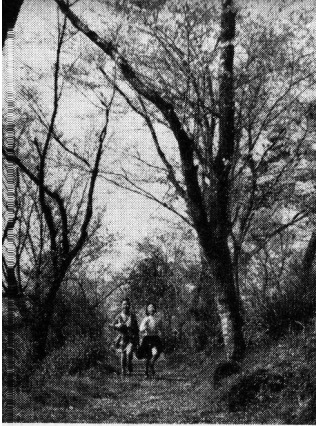
本春美 (奈良) 松山精一 (仙台) 和田稔 (横浜)



三席 語り 丸地 善朗 (静岡)

ペトリRF オリコンF3.5 75mm 絞開放 1/50 秒 ネオパンSS D-72 深画F3.5 SD-6

少女の恥じらいがちな
表情が、ホームの列車や
人の動きの中にあざやかに
描かれている。刹那に
あらわれるこうした世代
の特徴をつかむ速写の六
カ敷しさがよく克服され
た。下端を少し切りつめ
て欲しかった。



トンネル 石川 陽(東京) ベトリRF

感の強さや深さは、やはりどう画面を形成しているかがある。下半だけに切り詰めれば、それだけでも主題が明かにされる。



荒川の子供たち 星野政浩(東京) ベトリRF

子供たちの配置のまとまりを欠いてはいるが、無心なあそびが滲み出ている。



花火 吉野 勲(三鷹) ベトリRF

洗練された技術、それがこの場合、花火の自然光で生かされなかつたものか。見ている子供も今少し近づけたかった。



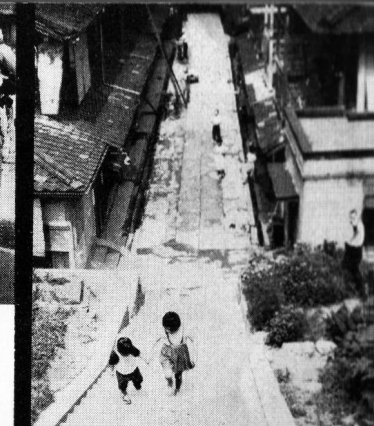
鏡を見る外人 須藤 隆(津) ベトリスーパー

主題が単純なので訴えるものは弱い、整った様式の安定感がある。



魚河岸のひとつ 山田偉夫(長崎) ベトリRF

入りを待つ独特の河岸風景。前景の人物の姿態を構成的に大きくとり入れたかった。



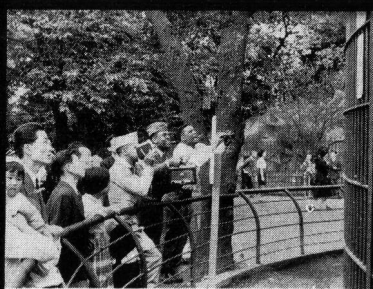
裏通り 岡山政信(大阪) ベトリRF

適当なカメラ・アングルだが、点景人物の配置とポーズの面白さに着目したい。



船 釣田義一(姫路) ベトリRF

子供の表情の可憐さは子供だけのものでは。それが端的に示されることを期待した



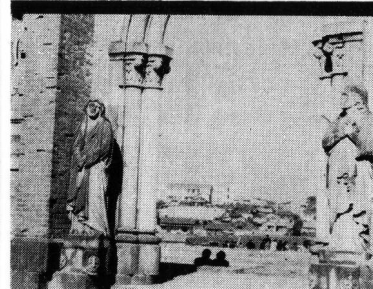
動物園にて 押鐘耕道(東京) ベトリ35

動物への興味があらわである。見ている顔だけに集中されれば一層主題が強められたのではなからうか。



寝顔 鈴木康之(東京) ベトリ35

時局に倦んだのだろうか、枚相ぶりが面白く怪しくとらえられている。



お屋どき 山口隆夫(長崎) ベトリRF

特異なキリスト教寺院のアーチや彫像と、シレットの二人だけに視点を集中させる形式の効用をさぐれないだろうか。



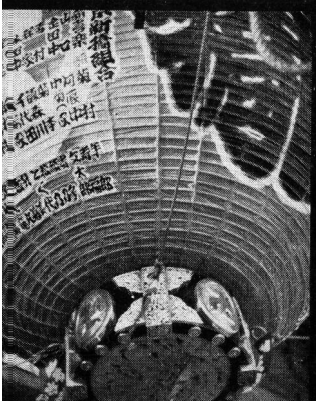
老婆 高橋雅由(東京) ベトリRF

よい素材の発見だが、カメラワークと背景で尖られたものが大きい。



雨の銀座(御運絡下さい)ベトリRF

街路のささやかな生活者。自家用車などの対比が望ましい。



うちん 古沢孝作(東京) ベトリスーパー

写りにすぎないが、それに加えられた人工の跡が美しく、お祭りにまつわる人々を相がしのばれる。



デパートにて 時田俊吉(古高) ベトリ35

サービス日の食料品売場に群がる人々。はなやかなデパートながらここは生活の匂いがある。



山 無沢達雄(鳥取) ベトリ35

山の素朴な感懐。単純化されたピッケルだけの造形美も一つの試みではなからうか。



ポートレート 水野 昇(岐阜) ベトリ35

清純な夏姿だが、無難さを突き抜ける創意のたくましきが希わしい。



砂丘 宮前宮雄(東京) ベトリスーパー

曇り日のために光りのアクセントは尖われたが、砂丘の詩韻がただよっている。

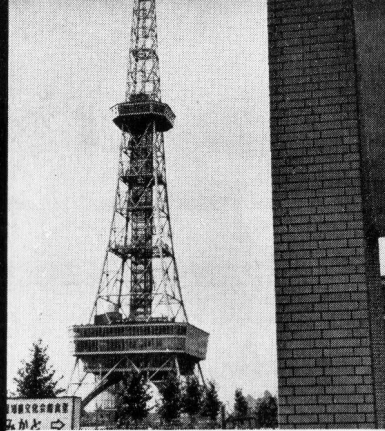


雪化粧 小原保男(岩手) ベトリRF

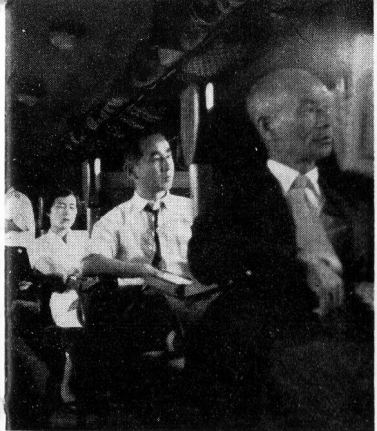
白雪の描く雪模様。木村という具象を離れた様式化も一つの試みではなからうか。



撮影会 北崎万治(東京) ベトリスーパー
演技を心得顔のモデル。それが撮影者を交えたことで一層明かにされている。



テレビ塔 小田幸平(劇崎) ベトリスーパー
メカニクな高い塔だが、部分的な鉄骨の構成の美しさや力強さも素材として加えられよう。



車中の人々 鈴木全造(福崎) ベトリフックス
列車内の素材としての面白さは格別。が、主題を見極める眼を先ず具えない。



「みこし」 仲井 淳(西) ベトリRF
上古や中古のいりとりどりの仮装。おし合いへし合いの「みこし」でそれがもみくちやである。



プールにて 堤 照男(東京) ベトリ35

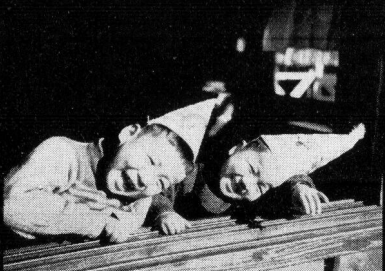
水にたおまれる幼児、幼児にたおまれる母親。夏のプールは都会人の海と川。



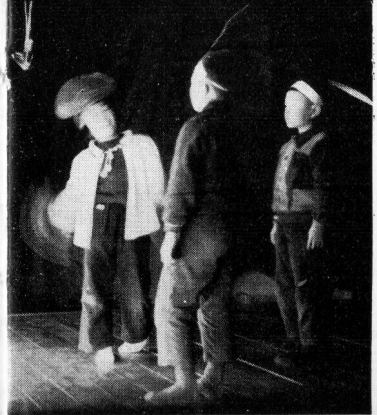
みくじ 千木良正夫(東京) ベトリ35
若い世代に観音さまのお託言。明るい生活の一とコマ



海藻とり 和田 稔(西前) ベトリRF



健ちゃんと修ちゃん 松山精一(仙台)ベトリRF



学芸会 松本春美(奈良) ベトリスーパー

幼い演技者たち。衣裳と配役のちぐはぐなことも、この舞台の興趣。

ベトリ ニュース

納涼上野不忍池
撮影会に参加

上野観光連盟主催による納涼撮影会は去る八月六日夕刻より行われ、当ベトリ・カメラもニュースカー及びモデル多数と共に参加、盛大に折からの小雨にも負けず挙行され、参加者の秀作が期待された。

海は呼ぶ南房総へ
撮影会御案内

デイリスボーツ社主催による八月二十八日(東海汽船橋丸にて南房総勝山へ)カメラ航路に当ベトリ・カメラも協賛いたし、船山克大東元諸先生に指導して戴き、賞品も盛沢山になつて居ります故振つて御参加下さい。

ベトリ三五
専用フードいよいよ発売

永らくベトリフアンの皆様より御要望を戴きました専用フードがいよいよ発売になりました、一般市場に出廻らない場合は直接ベトリ・カメラクラブまでお申越下さい。なお値段はケース付三八〇円になつております。

第八回ベトリ・サロン

作品募集

規格

資格 ベトリカメラ・クラブの会員

サイズ キヤビネ判以上

締切 九月二十五日(締切後の到着は

隔月募集ですから次回の分として

受付けます)

審査 田辺良雄、宇野木敏、後藤種吉
(イロハ順)

賞 特選一名 賞金貳千円及記念品

一席一名 賞金壹千円及記念品

二席三名 賞金五百円及記念品

三席五名 賞金参百円及記念品

佳作卅名 記念品

発表先 「ベトリ」第十号

東京都千代田区神田錦町三ノ十六ベトリカメラ・サービス・ステーション内ベトリクラブ宛

編集後記

会員の増加とともにベトリ・サロンの応募数は毎回激増して、審査会でも順位を決めるのに一と苦勞だが、技倆、内容ともに秀れた多数の作品を前にいきおい張切らないわけにはいかない昨今である。
今回から前号で発表の通り、賞金を改め佳作を十名増加して多数のご応募に應えることになった。次回の締切までには、清澄な秋天下、豊富な題材に恵まれる好機なので、多数の収獲を寄せられよう期待したい。

ベトリクラブ

第 8 号
昭和三十年八月二十二日 印刷
昭和三十年八月二十五日 発行 (非売品)

印刷所

東京都千代田区神田神保町一ノ四六
株式会社 八光社

編集人

宇野木 敏

発行人

栗林 庸夫

発行所

東京都千代田区神田錦町三ノ十六
ベトリ・カメラ・サービス
ステーション内ベトリクラブ
電話(29)四六二四・六三八六番

ペトリ35

レンズ 新設計オリコール1:3.5F=45%
シャッター カーペル B.1秒~1/200秒
セルフタイマー、シンクロ内臓プロンター
タイプ

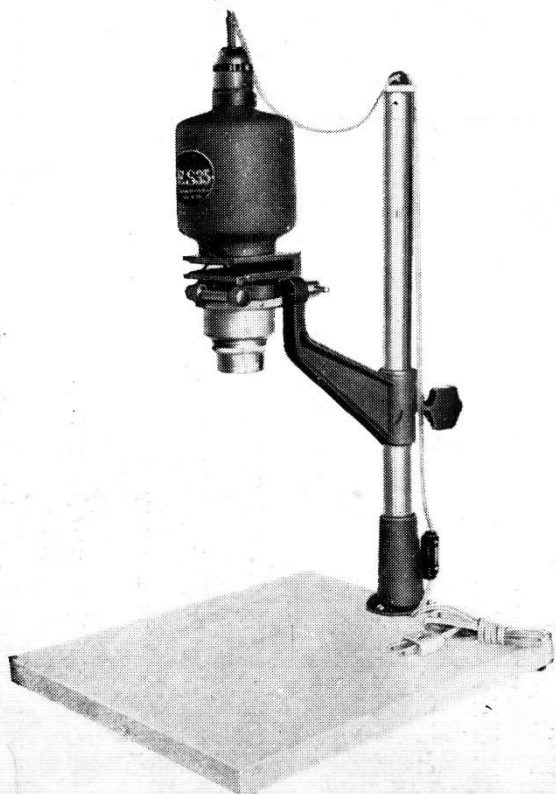
¥ 14,000,00



ペトリ35カメラ



PETRI camera



ペトリE.S35引伸機

ペトリE.S35

レンズ Eオリコール 1:3.5 F=50%
ヘリコイド廻転リング式・光学硝子二枚
構成コンデンサー・スライド、引伸機併用

¥ 8,000,00